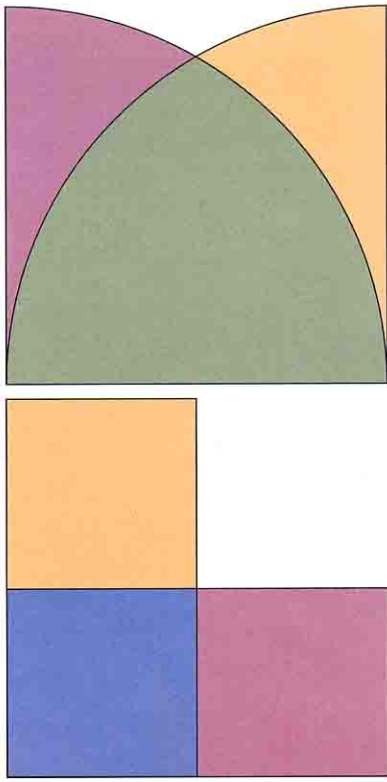


# ミュージアム・レター



Gakushuin University  
Museum of History

## Museum Letter No.2

発行日 ● 平成18年(2006)10月15日

もくじ

はじめに	1
住吉物語屏風	1
洛中洛外図小屏風	2
輦台渡し図	3
お知らせ	4

### Highlight —ハイライト

- ◆ 住吉物語屏風
- ◆ 洛中洛外図小屏風
- ◆ 小泉檀山

## 1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、平成18年(2006)10月2日(月)から12月14日(木)まで、常設展覧会「描かれたメッセージ—いにしへの都物語・京の旅—」を開催しております。今夏に開催した特別展覧会では、子どもの遊び道具である“絵すごろく”から世相や子どもの夢を読みときましたが、今回は、趣向をかえて、大型作品である屏風を中心に陳列して、京都の名所・旅への憧れなどを、解き明かす試みをしております。

本ミュージアム・レター第2号では、この常設展覧会に出品している作品のなかから、3点をえらび、史料の紹介をすることにいたしました。この機会に、当館収蔵品への理解を深めていただければ、まことに幸いです。

## 2. 住吉物語屏風(すみよしものがたりびょうぶ)

成立 江戸前期

大きさ たて164.4cm, 横306cm



『住吉物語』は継子物語である。中納言家の宮腹の姫君が継母から何度も結婚を妨害されるが、最後には「住吉」に隠れ潜んでいるところを男主人公に発見されて、めでたく結ばれるという筋書の物語。今回、学習院大学史料館で購入した「住吉物語屏風」は、元来草子であったものを、絵だけを屏風に貼りつけたもので、文詞の方はない。その貼り方にも若干の錯簡がある。江戸時代前期の成立であろうか。

原作『住吉ものがたり』(散逸)の成立は『源氏物語』以前に遡るが、既に鎌倉時代にはその「改作本」や絵巻が登場し、さらに室町時代には絵入りの物語草子(奈良絵本)が数多く生みだされ、かくして夥しいばかりの写本が現存する。江戸時代の絵入り整版本もある。もちろん、同じ本はないし、どの本が古態を残しているかも簡単には論じ得ない。諸本の系統分類もいまだである。が、この物語の特性はまさにここにある。時代の好尚に合わせながら変容し続ける流動的本文、しかもそれでいながら継子物語としての骨格は崩されていない。ある意味で本文の固定化を求められた聖典『源氏物語』以上に、物語らしさを生きたともいえる。この持続する生命力の秘密は何か。また本文と不即不離の関係で生成された絵の問題も重要である。史料館蔵「住吉物語屏風」の位置づけがまたれる。

(当館館長 神田龍身)